

## 20. Petrobras

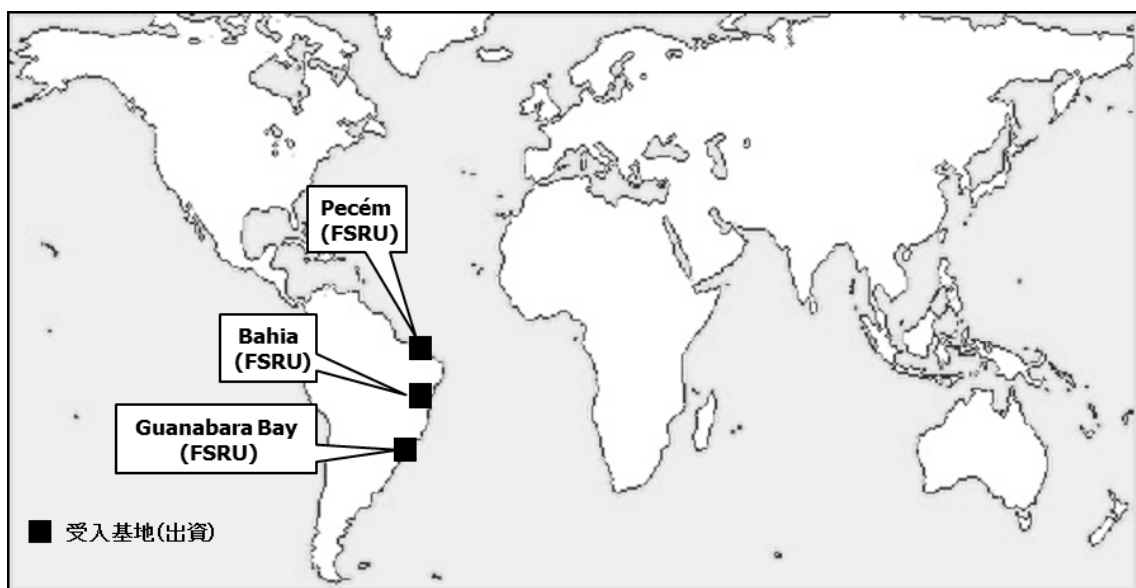
### (1) 企業概要

Petrobras はブラジルの国営石油企業として 1953 年に設立され、2020 年 2 月末時点でブラジル政府が法律に基づき、普通株式の 50.3 %を所有している。1997 年までは、卸売事業や小売事業を除き、ブラジルにおける石油・ガスに関連する活動は同社が独占していたが、現在では探鉱開発・生産については外資を含む民間企業の参加が可能である。同社による上流開発は、当初ブラジル東部の陸上油田の開発が中心であったが、その後、浅海部から大陸棚周辺の深海部、さらにプレソルト（海底下の岩塩層直下の層）へと開発対象を拡大しており、その過程で大水深における高い探鉱・開発技術と近海における多くの権益を取得した。

同社は海外でも広く活動しており、南米では探鉱・生産事業だけでなく、精製・販売・発電事業も手掛けていたが、2020～2024 年の戦略計画に従い、ブラジルを除き活動を 8 か国（アルゼンチン、ボリビア、コロンビア、ウルグアイ、米国、オランダ、英国、シンガポール）に限定した。日本でも沖縄の南西石油買収を通じて石油精製、販売事業を手掛けていたが、2016 年 10 月に太陽石油に南西石油を売却することで合意に至った。

2019 年の Petrobras の原油・ガス・コンデンセート国内埋蔵量は 96 億 boe（SEC 基準）であった。一方、同社の原油・コンデンセート・NGL 生産量は 277 万 bbl/d（うち国内 269 万 bbl/d）、天然ガス供給量は 76.5 Mcm/d（うち国内生産 50.4 Mcm/d）であった。

### Petrobras の LNG 受入基地図



#### IV. 主要企業別 LNG 事業動向

##### (2) LNG 関連

Petrobrasの2019年のLNGの輸入は8.2 Mcm/d (220万トン/年) と、2018年の6.8 Mcm/d (182万トン/年) から増加した。Petrobrasは国内3カ所 (Pecém、Guanabara Bay、Bahia) で浮体式LNG貯蔵再ガス化設備 (FSRU) を利用してLNG受入を行っている。LNGの輸入は長期契約を締結せず、スポットまたは短期契約で調達している。

一方、LNG輸出プロジェクトについては、以前は、Santos沖合堆積盆のプレソルトからの天然ガスを原料とする浮体式LNG (FLNG) プロジェクトが計画され、2009年にはFEEDが発注されるなど構想が進んでいた。しかし、近年のLNG価格の下落や国内需要の増加もあり、Santos沖合堆積盆のプレソルトからガスを輸送するパイプラインが2011年と2016年に稼働開始、さらに3本目のパイプラインが2021年に完成見込みとなっている。

##### Petrobras が出資する受入基地

国名	基地名	出資者	受入能力	受入開始
ブラジル	Guanabara Bay/Offshore (FSRU)	Petrobras	(注)	2008年
	Pecém, Ceará/Offshore (FSRU)	Petrobras		2009年
	Bahia/Offshore (FSRU)	Petrobras		2014年

(注) Petrobras の 2019 年次報告書によると 3 基地の気化容量合計は 47 Mcm/日 (年間 12.6 百万トン相当)。2017 年 7 月に Golar Spirit の傭船契約を前倒し解約後、3 基地を Golar Winter (気化容量 14 Mcm/d) 及び Excelerate Experience (気化容量 22.5 Mcm/d) の 2 隻の FSRU で運用している。

##### (3) 今後の戦略

Petrobras は 2019 年 11 月取締役会で 2020~2024 年の戦略計画を承認した。この計画は、特にブラジル国内のプレソルト地域における石油と天然ガスの探査と生産に重点を置いている。効率的な精製システムに加え、プレソルトの探査と生産を推進し、石油とガスに焦点を当てたオペレーションを行う事で、資本コストを超える運用収益を持つ企業を目指すとしている。再生可能エネルギーに関しては、風力・太陽光エネルギー分野で長期的にポジションを確保するための研究に取り組んでいく。また、ガスの配給及び輸送からは完全に撤退するとしている。

今後 5 年間の設備投資の予測は 757 億ドルで、そのうちの 85%が石油・ガスの資源探索と開発セグメントに割り当てられる。特に深海および超深海の活動に焦点を当てたポートフォリオとなっており、このセグメントへの投資の 59%は、プレソルト資産とそのプロジェクトに向けられる予定である。ガスおよび電力セグメントでは、プレソルトからの天然ガスの送出手間のために、ルート 3 ガスパイプラインと天然ガス処理ユニットに投資を集中する。さらに、太陽光発電や風力発電の研究開発への投資も計画している。

2019 年の純負債は IFRS 第 16 号 (国際財務基準の新たなリース基準) を考慮すると 789 億ドルとなり 2018 年の 959 億ドルから減少した。